

## 地域ねこ活動の定着と普及を目指して

○望月 弥生<sup>1)</sup>、梅澤 光男<sup>1)</sup>、松澤 淑美<sup>1)</sup>、中村 智子<sup>1)</sup>、小木曾 悦人<sup>1)</sup>、  
齊藤 富士雄<sup>1)</sup>、岡田 英二<sup>2)</sup>、山田 敏子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 長野県動物愛護セ、<sup>2)</sup> 長野県動物愛護会松塩筑支部ねこ部会

**【はじめに】** 飼い主のいないねこがもたらす生活環境被害や苦情対策として「地域ねこ活動」が全国各地で行われている。長野県でも、地域に生息する飼い主のいないねこの適正な管理と繁殖防止を図るため、ボランティアによる「地域ねこ活動」が実施されてきた。さらに当センターでは、この活動を定着・普及させるため、2002年4月から支援事業を実施してきた。

そこで、今回「地域ねこ活動」の効果と当センターで支援事業として実施してきた「地域ねこ」の不妊手術状況および術前検査の結果をまとめたので報告する。

**【実施方法】** 実施期間は2002年4月～2010年3月で、まずボランティアによる「地域ねこ」の生息数の経時的な変化の集計を実施した。地域ねこの不妊手術はボランティアが当センターに搬入し、術前検査を行った後に行った。さらに、識別のため耳カットおよび首輪の装着等を実施した。

**【結 果】** 2002年～2004年の支援地域はM市内の6地域で管理頭数102頭であった。この「地域ねこ活動」は地域に定着し、2005年には11地域282頭となった。2006年～2008年で徐々に県内に拡大し、2009年には87地域798頭となった。ボランティアの人数も活動当初では約30名だったが現在は約420名と増加し、県内に広く普及した。当センターで実施した不妊手術頭数は年間約60頭で、延べ418頭であった。また、地域ねこがウイルス性疾患に高率に罹患していることを疑い、ウイルス検査(猫免疫不全FIV・猫白血病FeLV)を手術時に実施した。その結果、メスの陽性率が8.7%でオスの陽性率は29.1%と高く地域差もみられたものの、全体のFIV陽性率は10.4%、FeLV陽性率は5.9%であった。国内のFIV陽性率は約12%、FeLVは5～10%と推定されており、今回の結果と同程度であった。不妊手術の実施により「地域ねこ」の繁殖制限ができ、「地域ねこ活動」を始めてから約3年後の地域では管理頭数が半数～3分の2程度に減少した。この活動を継続したことで管理頭数が0になった地域もあり、ボランティアと行政が協働することで「地域ねこ活動」が普及し、飼い主のいないねこによる被害対策として大きな効果があった。